

## 高松市立牟礼南小学校

所在地 〒761-0122

香川県高松市牟礼町大町1115番地1

TEL 087-845-9324 FAX 087-845-1450

E-mail [e-muremi@edu-tens.net](mailto:e-muremi@edu-tens.net)

校長 岡本 昌澄 児童数 171名



### 学校教育目標

「人間性豊かで、主体的に生きる たくましい児童を育てる」

### 研究主題

郷土への愛情をもち、ともに未来を切り拓く児童の育成  
—探究的な学びの充実の積み上げを通して—

## 第1章 研究の概要

### 1. 研究主題の設定にあたって

近年、子どもたちを取り巻く社会は、絶え間ない技術革新によって社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。また、突如の新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大など予測困難な時代を迎えている。香川県でも、少子化や若者の県外への流出などによる人口減少に伴い、今後の地域活力の低下が懸念される状況にある。本校児童においては、質問紙調査の「将来の夢や目標を持っていますか?」という質問に肯定的に答えた児童が50%であったり、「むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか?」という質問に肯定的に答えた58%程度であったりと、予測困難な時代を主体的に切り拓いて生きていこうとする力に課題が見られる。

### 2. 研究主題について

このような時代・実態にあって、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して粘り強く課題を解決していく力を育むこと。また、郷土への愛着や誇りを育み、香川で育ったことを人生のゆるぎない礎として、どこで生きようとも郷土の発展に思いをはせるとともに、自分の良さや可能性を見出し、夢と志を持って歩み続ける人の育成等が求められている。

そこで、本校では教育目標「人間性豊かで、主体的に生きるたくましい児童」の具現化に向けて、研究主題を「郷土への愛情をもち、ともに未来を切り拓く児童の育成」と設定し、令和3年度より生活科と総合的な学習の時間を中心に研究を進めている。

### 3. これまでの成果と課題

令和3年度ではコロナ禍ではあっても、可能な範囲で地域の「ひと・もの・こと」から学ぶことを実践してきた。例えば、地域の海岸に出て清掃活動に取り組むことで、テレビやインターネットなどで取り上げられていた『海ごみ』問題が他人事ではなく、自分たちの地域とも結びつき、課題意識をもつことができた。また、体育でボッチャ

とゴールボールについて学んだことから様々な障害をもつ人の暮らしについて関心が広がり、地域の福祉協議会や視覚障害者から話を伺う機会を作ることで「視覚障害をもつ人もできるスポーツを考えたい」と解決したい課題見出すことができ、充実した学び合う姿が見られた。一方で、課題意識をもつことができたものの、その解決を地域の「ひと・もの・こと」と協働的に取り組むことができず、実践や発信でのごたえを児童が感じるには至らなかった。また、研究の初年度であり、児童の課題意識を十分高めることができない学年もあった。

令和4年度では前年度の課題を克服できるよう、課題意識や主体性を引き出すための手立てや、児童が地域の「ひと・もの・こと」について発信することによって自己の自信を高められるような単元の展開を研究・実践してきた。その結果、例えば、コロナ禍で長らく中止になっていた地域の伝統行事を盛り上げようと調べ、まとめたことを発信する中で情報の受け手や関係者から好意的な反応をもらうことができた。また、地域のこども園に在籍する年長児との交流活動を繰り返し行う中で、児童が秋のおもちゃについて学んだことを発展させ、「おもちゃ祭り」を企画。年長児を招待することで年長児やこども園の教諭から好意的な反応をもらうことができた。そうした実践を通して、児童はよりよく課題を解決するために、主体的に物事に取り組む力と自信を育むことができた。一方で、児童が自らの力で探究的な学びのプロセスを踏まえて探究的な学びを充実させていく姿の実現には至らなかった。

#### **4. 令和5年度の研究の重点**

以上の成果と課題を踏まえ、令和5年度では研究の副主題を「探究的な学びの充実の積み上げを通して」と設定し、引き続き、生活科と総合的な学習の時間を中心に、探究的な学びを充実させることを大切にしたい。それは、これからの時代を切り拓いていくために必要不可欠な「課題を見出し、協働的に解決する力」を一層積み上げ、児童自身が生活科と総合的な学習の時間を通して育まれた自身の資質・能力についてメタ認知できる状態まで育てていくためである。また、そのために、今年度は義務教育開始前となる幼児教育における学びや育ちにも目を向け、学びの連続性に配慮しつつ、以下の研究の重点に沿って教育の内容や方法を工夫したい。

### **(1) 「総合的な学習の時間」で探究的な学びの充実を図るための5つの視点**

#### **①【課題の設定】【情報の収集】を充実させるための「問いと見通し」**

総合的な学習の時間にあっては、児童が実社会や実生活に向き合う中で、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することが欠かせない。生活科においても、児童が探究的に教材と関わるためには同様である。しかし、児童が自ら課題をもつことが大切だからといって、教師は何もしないでじっと待つのではなく、教師が意図的な手立てを打つことが重要である。また、【情報の収集】は課題の解決に必要な情報を収集する活動であり、そのことを自覚的に行うことが必要となる。「何のために」「何を」「どのように」取り組むのかといった「問いと見通し」を共有することが重要である。そこで、鳴門教育大学の泰山裕准教授が提案されている「探究のプロセスに問いと見通しを位置付ける」などの具体的な手立てを実践し、その成果と課題を検証したい。

#### **②【整理・分析】を充実させるための「思考ツールの活用やグループ活動の設定」**

収集した情報は、それ自体はつながりのない個別なものであり、それらを種類ごとに分けるなどして整理したり、細分化して因果関係を導き出したりして分析する必要がある。そこで、思考ツールを活用する。また、整理・分析した情報に意味を見出す時、児童によって捉え方は異なり、対話的・協働的に学ぶことで認識の広がりや深まりが生まれる。どのような方法・環境であれば情報の整理や分析が充実するのか考えたい。

#### **③【まとめ・表現】を充実させるための「実社会の人とのつながりを生かす表現活動」**

課題を解決するために獲得してきた学びを相手や目的を明確にしてまとめたり、表現したりする際には、報告

会を開いたりパンフレットを作成したり社会への参画を行ったりするなどその具体的な方法を選択し、実現するための表現力が求められる。地域社会における課題を解決することにつながった際には、自分が地域社会に役立っていると感じ、確かな自信が生まれてくることにもつながる。そのためには知識・技能や思考力をフル稼働させられる実社会の人とのつながりを生かした表現活動に取り組むことが肝要である。その具体を実践に落とし込みたい。

#### **④【探究的な学びのプロセス】の自覚を促す「教師の働きかけ」**

探究的な学びの充実を図り、積み上げた先には、児童が自ら探究的な学び駆動させ、未来を切り拓く資質・能力が育まれると考える。そのためには、探究的な学びのプロセス（「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」）を児童自身が自覚し、学び方として身に付けることが必要不可欠である。併せて教師が気づきを促す適切な働きかけが必要不可欠である。児童の実態をもとに、教師がどのようなタイミングで探究的な学びのプロセスへの気づきを促す働きかけをすればよいのか考えたい。

## **(2) 生活科で探究的な学びの素地を形成するための2つの視点**

幼稚園教育要領等において「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」がまとめられ、幼児期の遊びや生活を通じて育まれる自立心や協同性、思考力の芽生えなどの大切さについて、共通理解が図られるようになり、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るための手掛かりが示されている。

そこで、生活科の学びにおいては、幼保こ小の連携・交流で得た情報も鑑みて実態を把握し、幼児期における遊びを通じた総合的な学びを生かして具体的な活動や体験を取り入れる。それらを通して感性を豊かに働かせ機会を充実させるとともに、思考の質が高まる小学校と幼児期の結節点であることを意識し、以下の2つの視点をもって中学年以降の探究的な学びの素地の形成へとつなげたい。

### **①【児童の思いや願い】を引き出すための「学習対象との出会いの工夫」**

生活科では、一人一人の児童の思いや願いの実現に向けて活動を展開していく。

生活科の内容構成に示されている9項目の学習対象が、児童にとって好奇心や探究心、興味や親しみ、憧れなどからくる「やってみたい」「知りたい」「できるようになりたい」対象になるためには、環境構成や活動への誘いかけ、認識とのずれなどの学習対象との出会いを工夫する必要がある。

### **②【気づきの質】の高まりに迫る「試行錯誤の体験活動と表現活動の往還」**

生活科では、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、直接体験で得た気づきを表現することによって、その質を高めながら、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が育成されていく。

気づきの質を高めるためには、気付いたことを伝えたり、交流したり、振り返って捉え直ししたりして表現することが大切である。自分の思いや願いを実現しようと、活動や体験に熱中し没頭し、発見したり成功したりしたことは表現への意欲となる。それらを言葉・絵・動作・激化などの多様な方法によって表現することにより、無自覚な気づきが自覚的になったり、ばらばらのように思えた気づきが関連付いたりする。気づきの質の高まりは、満足感、成就感、自信、やりがいなどの手応えとなり、次の体験への安定的で持続的な意欲につながっていくことになると思う。

上記のような児童の「たい」が起点となって展開される学習を積み重ねることで、中学年以降の総合的な学習を中心とした探究的な学びの素地の形成につなげたい。

# 人間性豊かで、主体的に生きる たくましい児童

郷土を愛し、ともに未来を切り拓く児童

課題を見出す力

協働する力

粘り強く解決する力

探究的な学びの充実

総合的な学習の時間の学びのプロセス



## 問いと見通し

課題の設定

情報の収集

まとめ・表現

整理・分析

実社会との  
つながりを生かす

思考ツール・  
グループ活動

6年

5年

4年

3年

生活科の学びのプロセス

思いや願いをもつ

試行錯誤の  
体験活動

表現活動

架け橋期

幼児教育等

2年

1年

教科等での学び

探究的な学びの  
素地の形成



ワークショップ形式での カリキュラムの確認・改善

①4月 ⇒ ②7月 ⇒ ③9月 ⇒ ④2月